

アート・ヴィレッジとうおん構想 取組の成果と今後の方針について

東温市

令和7年8月15日

ー 「アート・ヴィレッジとうおん構想」とはー

構想理念

東温市 = 「舞台芸術の聖地」としてブランディング(記号化)

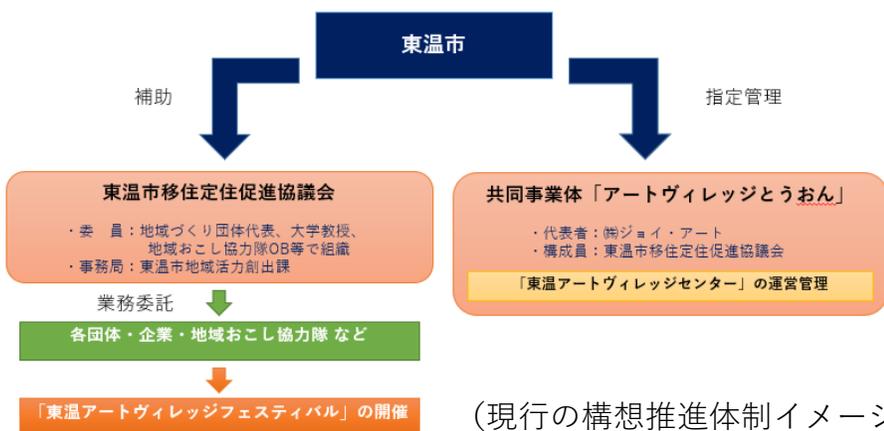
- 1 | 芸術関連人材の移住・交流人口の拡大
- 2 | 市内経済の活性化 (= 所得向上及び雇用創出)
- 3 | 仕事と学びの場の創出 (まち・ひと・しごとの好循環)

計画期間

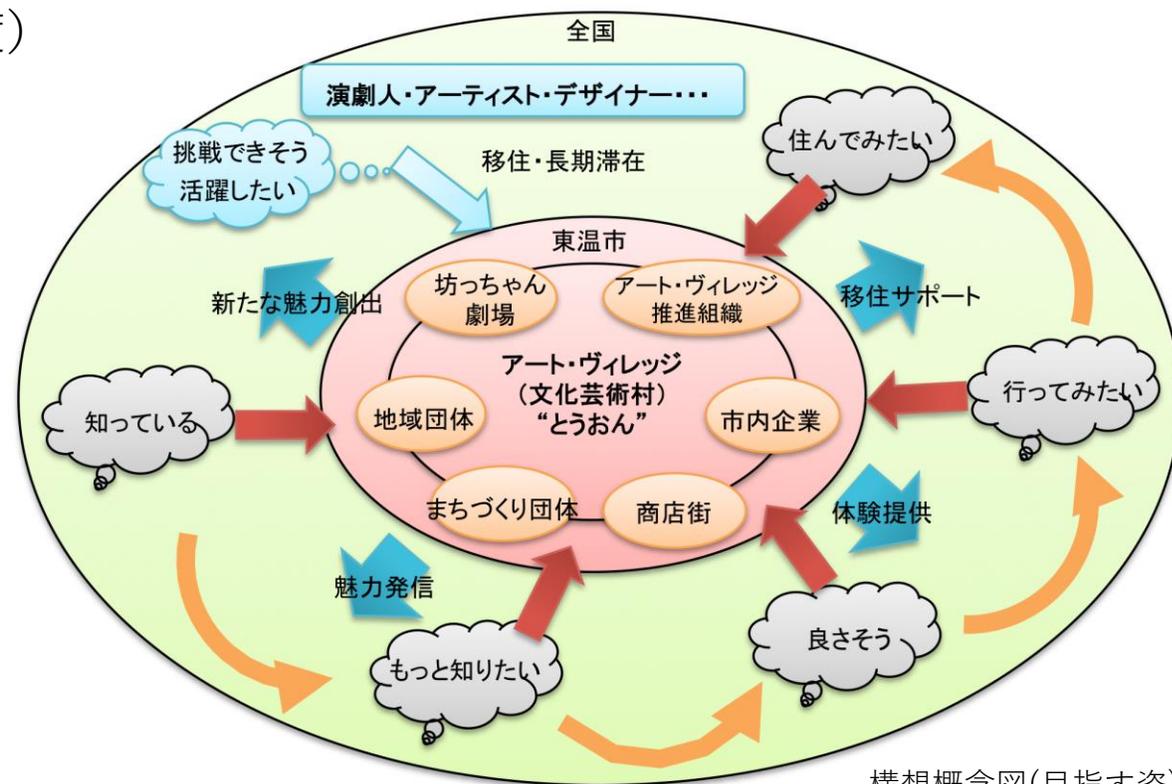
10年間 (平成28年度～令和7年度)

主な取組内容

- ー 東温アートヴィレッジセンターの設置・運営
- ー 東温アートヴィレッジフェスティバルの開催



(現行の構想推進体制イメージ図)



構想概念図(目指す姿)

ー 「アート・ヴィレッジとうおん構想」により得られた成果 #1 ー

< 定量評価 >

	計画値	現状値	達成状況
【移住者数】	94人	25人	未達成
うち関連人材	14人	22人	達成済
うち俳優養成所等	80人	3人	未達成

	計画値	現状値	達成状況
【経済波及効果】	3億1750万円～7億1750万円	5億6518万円～16億3304万円	達成済
うち移住者	1億1750万円	3125万円	未達成
うち交流人口	2億～6億円	5億3393万円～16億179万円	達成済

※経済波及効果(うち移住者)の算出方法：移住者数×125万円（年間消費 国平均額）

※経済波及効果(うち交流人口)の算出方法：センター来館者数×5000～15000円（日帰り観光消費額）

センター来館者数 計画値40000人 ⇒ 現状値106,786人（R7.5末現在）

ー 「アート・ヴィレッジとうおん構想」により得られた成果 #2 ー

< 定性評価 >

- ◇ 市内外の人材や民間団体が舞台芸術に参加できる基盤創出・文化土壌の発展
 - アートヴィレッジセンターの整備
 - アートヴィレッジフェスティバルの実施

- ◇ 交流人口拡大による経済効果拡大等の地域活性化に寄与
 - アートヴィレッジセンターの運営
 - 地域と連携したアートヴィレッジフェスティバル企画の実施

- ◇ 「舞台芸術の聖地」としてのブランディング、市のプロモーション戦略としての効果発現
 - メディアからの取材申入れ拡大、地方創生大臣・全国市議会等からの視察受入・拡大

- ◇ 文化芸術関連人材の育成、情操教育の推進
 - 東温市民ミュージカルの実施
 - 中四国学生演劇祭の開催
 - 中学・高校等との連携拡大

「移住施策」から「文化施策」へ

現行の事業との調和・融合も目指した取組として推進

首都圏や地域の若者にとって魅力的で、
かつ働く場として選択ができる環境を整えると共に、
本市に住むすべての方にとって
「住み続けたいまち」「いきいきと暮らし続けることのできるまち」
「芸術に気軽に触れることができ、自らも活躍できるまち」
であり続けるための取組として再始動

01 培ってきた財産を、次世代へ。

02 より身近で、より参画しやすい取組へ。

03 革新的な、挑戦ができる環境へ。

01 培ってきた財産を、次世代へ。

「とうおんアート推進計画」(仮称)の策定

「アート・ヴィレッジとうおん構想」の理念を継承した新たな計画の策定及び推進を図ります。

東温アートヴィレッジセンターの運営

現在の指定管理期間内における東温アートヴィレッジセンターの運営を継続します。

東温アートヴィレッジフェスティバルの開催

計画期間内における東温アートヴィレッジフェスティバルの開催を継続します。

02 より身近で、より参画しやすい取組へ。

アートヴィレッジフェスティバルへの市民参画の拡大

東温アートヴィレッジフェスティバルに公募制を導入します。

市民参加型企画の拡大

市民参加型事業やワークショップ等の充実による市民等の参画しやすい環境づくりに取り組みます。公募により市民参画を拡大した「みんなでつくるフェスティバル」の開催を目指します。

ボランティアスタッフ制度の導入

舞台制作等に関わってみたい方、参加してみたい方が気軽に参加できる制度構築に努めます。

03 革新的な、挑戦ができる環境へ。

民間団体の参入

本市の文化芸術発展を目指す一般社団法人の参入により、新たな仕組みを構築します。

文化芸術関連事業の企画実施・アーティスト等への支援

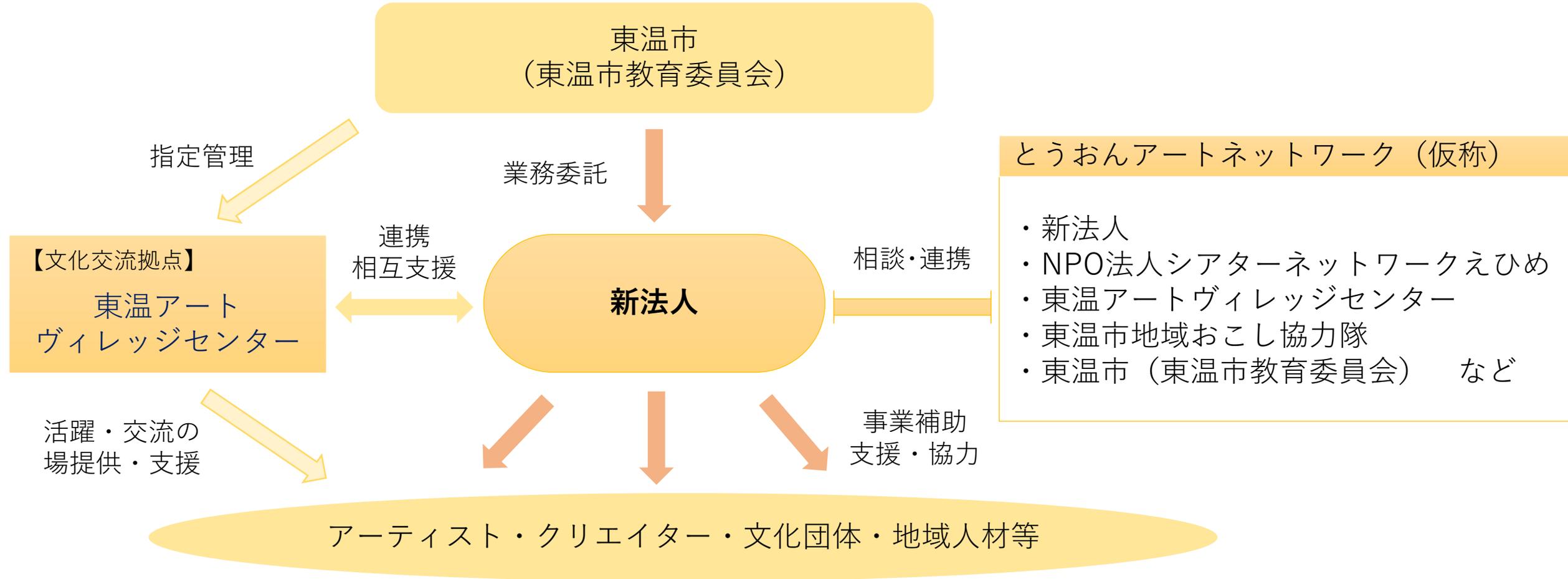
更なる官民連携の推進による舞台芸術を中心とした文化芸術関連事業を計画的に実施しつつ、若手アーティストや市内文化団体等への積極的な支援に取り組みます。

他分野との連携強化

教育、福祉、観光、地域振興分野等との連携強化に取り組み、文化芸術を通じた人材育成環境の構築に努めます。

－ 事業の運営スキーム（案） －

とうおんアート推進計画（仮称）の推進に当たり、新法人を中心とした新たな官民連携事業体制の確立による文化芸術団体・個人への支援充実を目指します。



— 新法人の設立メンバー —



理事

大瀬戸 正宗

Masamune Osedo

1999年生まれ、広島県出身。令和6年4月1日から東温市地域おこし協力隊として就任。香川県善通寺市の四国学院大学において小劇場を中心とした演劇等に関する専門知識を学びながら、自身で演劇団体「片隅企画」を設立し多くの公演を実現。舞台監督や俳優業などをフリーランスとして受託し、四国を中心に様々な団体等の舞台制作支援に関わってきたほか、令和7年1月から未来高等学校「芸能・演劇クラス」の非常勤講師を務める。



理事

愛洲 恵

Megumi Aisu

1982年生まれ、東温市出身。元東温市移住コンシェルジュ。中学校から社会人まで演劇に関わり、2017年に開催された「東温市民ミュージカル」に参加。同年、東温市市民提案活動支援事業を活用して「東温市民劇団」を立ち上げ。市内小中学校等におけるワークショップ等の活動を精力的に行いながら、東温アートヴィレッジフェスティバルに参加し、東温市の地域資源を題材とした舞台公演を毎年開催している。



スーパーバイザー

鈴木 美恵子

Mieko Suzuki

1947年生まれ、広島県出身。広島、仙台での演劇活動を経て、松山で劇団を立ち上げ。その後、演劇鑑賞団体「松山市民劇場」の事務局長を経て、2007年にNPO法人「シアターネットワークえひめ」を設立し、地域の舞台芸術振興のための意識啓発活動、人材育成事業、創造空間整備事業など文化芸術の環境づくりに取り組み、アート・ヴィレッジとうおん構想の立ち上げにも携わった。2012年よりシアターねこを開設し、2024年8月の閉館まで代表を務め、現在も県内の舞台芸術発展に向け精力的に取り組む。

アート・ヴィレッジとうおん構想 方針検討で目指す将来像

アート・ヴィレッジ
とうおん構想

「舞台芸術の聖地」を
目指すための基盤づくり

- 人材の確保・育成
- 活躍の場・拠点づくり

H28～R7

【新規】とうおんアート
推進計画（仮称）

アート事業と既存文化事業
との調和を図りつつ、市と
してより発展した文化芸術
基盤の構築を目指すための
仕組みの再構築

R8～R12

東温市の文化・
芸術の総合的発展

継続して市の文化・芸術の
振興に資することができる
体制への発展を目指す

R13～

より豊かで、より充実した市民生活を提供できる体制を構築



A R T
VILLAGE
TOON